

消費者フォーラム in HIROSAKI

日時 2018 年 1 月 27 日（土）

場所 弘前大学人文社会科学部 4 階 多目的ホール

参加者数 44 名

弘前大学人文社会科学部と青森県消費者協会の連携事業の一部として、消費者フォーラム in HIROSAKI を開催した。

昨年までは、パネルディスカッションを取り入れていたが、本年度は消費者問題講義受講生グループによる成果発表を取り入れ、チームごとに取り組みを発表し、活発な質疑がなされた。

詳細な要旨は、本報告書に収載されているので、概要を説明する。

第 1 報告 高校生・高校教員への消費者教育アンケート調査の結果 保田宗良（人文社会科学部）

8 月 8 日のオープンキャンパスの際に実施した青森県内高校生 68 名のアンケート調査の結果及びそこから得た知見と青森県内高校教員、家庭科、商業科担当教員へのアンケート調査（11 月に実施、85 名に送付、47 名から返送、回答率 55%）の結果及びそこから得た知見、課題を報告した。

高校生のアンケートの考察は問題が生じた場合は 188 に連絡することを徹底すること。高校教員のアンケートから得られた知見、課題は高校の家庭科、公民科、商業科目に内容の重複があり、それを整理することが必要である。大学との連携は大学が示す方法、教材が分からないと何とも言えないといった意見の紹介、高校、大学の教育内容を明確にし、家庭でそれをフォローする消費者教育が必要であることを提示した。

第 2 報告 弘前大学における消費者問題講義の課題と展望 福田進治（人文社会科学部）

福田教員は、一昨年度から進めている弘前大学における消費者問題講義について、3 年間の学生の授業評価アンケート調査の数字にもとづき報告した。昨年度、学部と青森県消費者協会は連携協定を締結した。当初より協会から推薦されたゲストスピーカーによって進めた講義は、概して高い評価を受けている。消費者教育の必要性が高まっているのに、ゲストスピーカーの人件費が削減されるという報告もなされた。



第2 報告 福田教授の報告

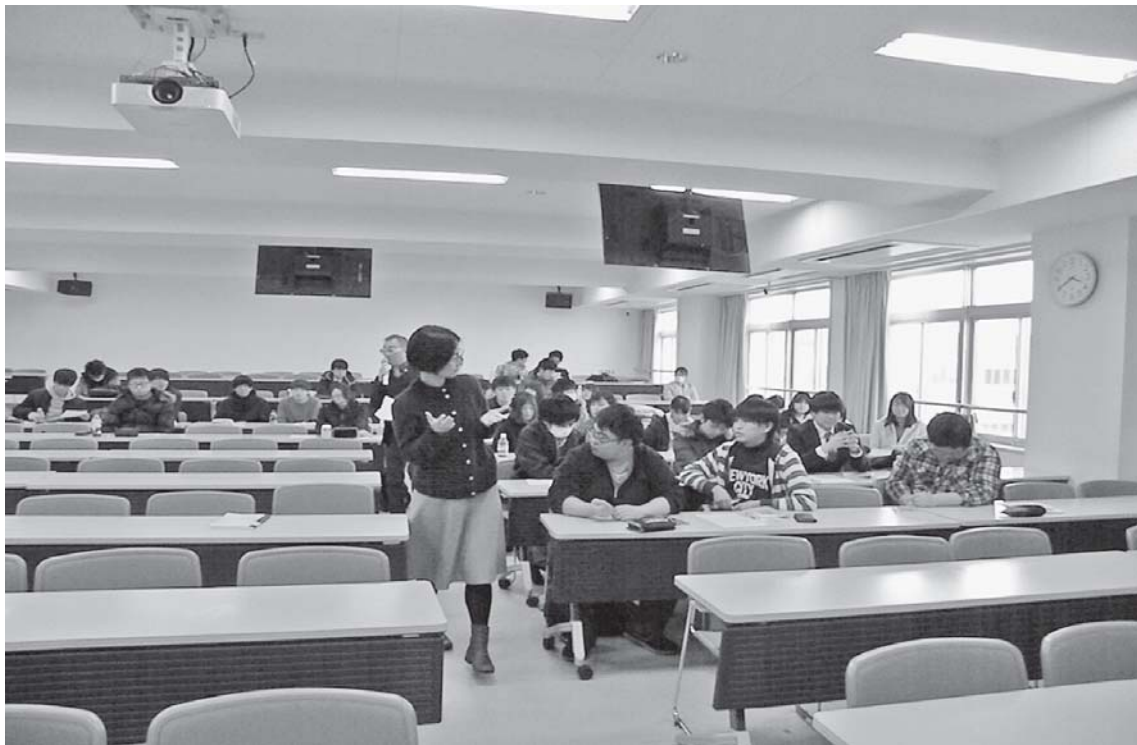
第3 報告 大学生の成果発表～消費者市民社会形成の取り組み～
消費者問題受講生グループ

学生の報告を指導している加藤徳子氏（非常勤講師・消費生活アドバイザー）から、大学生の成果発表の概要が簡潔に報告され、学生の指導の軸としている「世界を変えるための17の目標」（SDGs）が示された。

受講生グループは4チームに分かれて報告を行った。テーマは以下の4テーマである。

- グループ A ソーシャルゲーム被害から見る消費者被害について
- グループ B 食品ロスの現状と解決に向けた取り組み
- グループ C プラスチックゴミから考える消費者問題
- グループ D ファストファッションと労働の関係

各チームの報告後に質疑が行われ、学生同士活発な議論が展開された。



全体の質疑応答の場面

全体の質疑応答

休憩時間 10 分間に質問票に質問内容を記入し、報告者と質問者の討論がなされた。ソーシャルゲーム・ネットゲームのチームに対しては、幼児から高齢者まで幅広い年齢層の消費者がいるが、どのように IT リテラシーを修得してもらうかという質問が出され、低年齢者であれば学校で、年配者であれば公民館で講座を開催するという回答がなされた。

ファストファッションのチームに対しては、新しい視点の意味が問われ、きちんと製造された衣服を探索する視点という回答がなされた。

全体を通して、熱心にメモを取る学生が目立ち教育の効果はあったが、一般市民への知識啓蒙という点では参加者層が限定されたので、課題を残した。